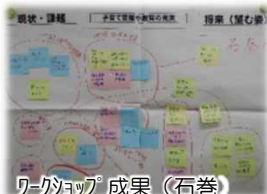


タウンミーティング及び若者Webアンケートの結果について

1 10年後の宮城を考えるタウンミーティング

(1) 実施概要

趣旨	県民と直接意見交換し、次期総合計画の最終年度にあたる令和12年度(2030年度)の宮城の姿を共に考えるため開催				
日程	R2.1.15(水)	1.17(金)	1.28(火)	1.31(金)	2.9(日)
会場	大崎	気仙沼	大河原	石巻	仙台
内容	第1部:計画骨子案の説明 / 第2部:10年後の宮城を考えるワークショップ(第2部は4テーマに添って付箋と模造紙を使用した少人数グループワーク) ①地域産業の発展や雇用の創出/②子育て支援や教育の充実 ③安心していきいきと暮らせる地域社会の形成/ ④自然と調和した強靱な県土づくり				
参加状況	第1部説明(人)	第2部ワークショップ(人/グループ)			
	355	130(28)	①経済 39(8)	②子ども 45(10)	③いきいき 32(7)



(2) 意見の分析

▽ 第1部では、人口減少への対処法や市町村との関係など総論的なもの、**教育の充実や公共交通整備など個別分野のもの**など計画骨子全般に意見

▽ 第2部では、自由な意見交換を通じ、以下の例のように新ビジョンの横断的視点と位置づけた「**人づくり**」や「**地域づくり**」に整理できる議論が多数

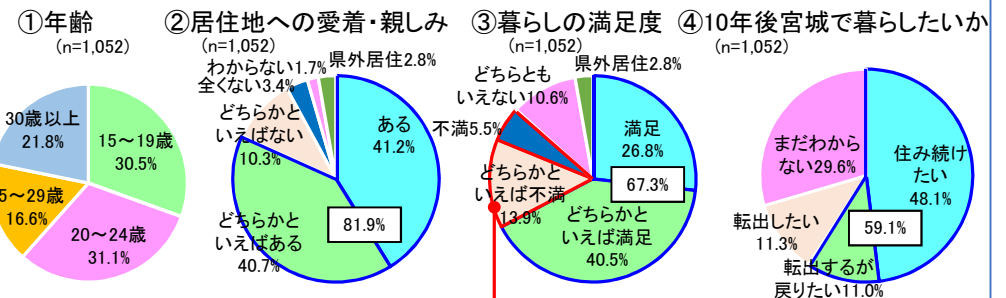
テーマ	「人づくり」の主な意見	「地域づくり」の主な意見
①経済	商店街や地元企業、一次産業の 人手不足 が目立つ	若者が地元に残るような 産業創出や支援 が必要
②子ども	地域のつながり による子育てや、 子どもの主体性 を高める教育が大切	子どもの遊び場 や 体験学習 で活用できる 地域資源 の不足
③いきいき	地域を担う若者が減り、若者と高齢者の 世代間交流 や 活動 が少ない	地域の維持に 地域交通の確保 が必要
④県土	震災の記憶や経験の伝承で、 復興の過程 や 成果 を今後活かすべき	田んぼの ダム機能 など、 インフラ の 多面的機能の発揮 が重要

2 若者Webアンケート

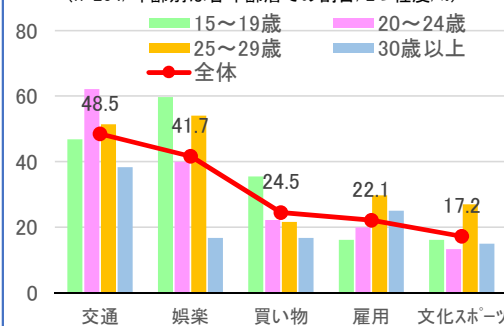
(1) 実施概要

趣旨	主に宮城県在住・出身の若者(15~30歳程度)に対し、「宮城県に住み続けたい」と考える要素をインターネットによるアンケートで調査		
日程	R1.10.28(月)~R2.2.29(土)	回答件数	1,052件
回答者属性	性別		居住地
	男性 51.1%	女性 46.0% 無回答 2.9%	仙台市 50.8% 仙台市以外 49.2%
質問項目	職業等		
	学生 53.2%	社会人等 46.8%	
質問項目	居住地への愛着や親しみ / 暮らしの満足度 / 不満分野 / 居住地選択時の重視事項 / 10年後宮城で暮らしたいか / 県外で暮らしたい理由 / 若者定住に必要な取組 / 宮城への思い		

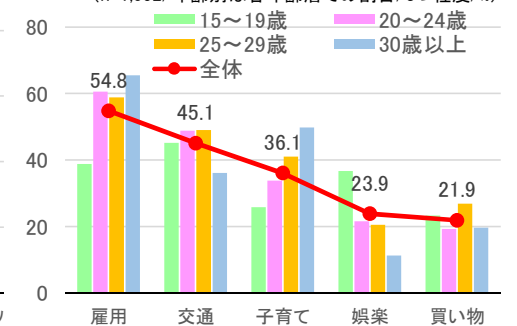
(2) 回答の分析



⑤ 不満を感じる分野TOP5 (n=204/年齢別は各年齢層での割合/2つ程度/%)



⑥ 若者定住に必要な取組TOP5 (n=1,052/年齢別は各年齢層での割合/3つ程度/%)



▽ 県内の若者の居住地に対する愛着・親しみが高いが、暮らしの満足度は若干下がり、10年後も住み続けたいと考える者は6割弱にとどまる。
▽ 多くの若者に宮城県に住み続けてもらうために重要なこととして、第一に**雇用の充実**が挙げられ、総じて「**公共交通など生活環境の利便性が確保された地域で、仕事をしながら楽しく暮らしたい**」という意見が多い。